子供会シリーズ（20）

思春期

早い子は十一・二歳で、遅くても十四歳位で思春期という時を迎えます。男の子ならのど仏が出て来て声がわりし、男らしい体となります。女の子は乳房が発達し、生理が始まります。いろいろな点で大人になった事を示します。体が変わったという事は精神的にも変化していると親は見なければならないと思います。親として思春期をどう子どもと過ごすか考えなくてはいけません。

小学生の時代は比較的安定した時代です。例えば非行の低年令化といっても、初発型非行の数だけ見ても小学生は少ないのです。思春期の初期を「疾風怒濤の時代」といった学者がいますがまさにそのような時代であるといえます。

この思春期は非常に不安定な時代です。この時代は体は大人でありながら大人として認められない時代です。この時代は人間特有の時代で大人と子どもの中間地帯を歩くといってよいでしょう。この中間地帯を歩きながら、自分は何だろうか、自分はどうしたらよいか、自分はどうなるかというようなことを悩みながら生きているのです。そして児童期までにつくられた自分というものをもう一度問いなおしているのです。その上受験という力が外から加わって来ますのでなお不安定になります。

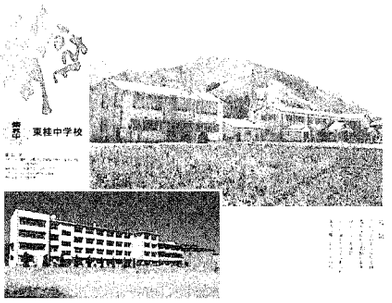
この不安は増幅します。例えばちょっとした事で優越感を持っていばるかと思うと、劣等感がでて落ちこみます。親に親愛の情を示したかと思うと、親を「バカ」にします。孤独だと思うと、仲間をもとめる。ちょっとしたことで幸福感に浸っていたり、絶望のどん底と考えたりするのです。

大人として安定した基盤がつくられるまでこの心の不安はつづくのです。ですから中学生、高校生の時代は親の対応が非常に難しいといえます。時には親に反抗して手のつけられない時もあります。こういう反抗をしないでよい子で育った子が成人になって問題となる時もあります。次回は「十四歳は他人」というテーマで、思春期の子を持つ親の在り方を考えます。

教育相談室　☎43－1111　内線　214

今月のカレンダー

「東桂中学校」



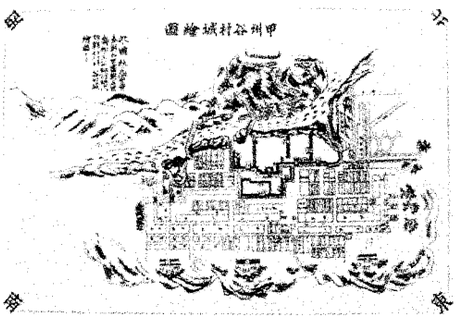
本校には、校舎の前に、「語らいの広場・相撲の芝生」と呼ぶ三百坪の広場がある。石タイル張りの広場、緑の植え込みと芝生、大小のステージ、休息用のテーブル、椅子等を備えている。授業や学級、学年の集い、運動の練習、放課後や休憩時の団欒等いろいろに利用される自由な空間である。緊張の連続の学校生活にゆとりと潤いをもたらし、四角い校舎の景観に安らぎを与え、教育活動を活発にする有形無形の効果を持つと、密かに自慢している施設である。今日も広場から、生徒の楽しそうな明るく弾んだ声が校舎に響いて来る。

日々の教育実践でも、ゆとりを保ちながら、活き活きした生徒の活動を促し、生徒の持つ可能性を最大限に発揮できる教育を目指し、全職員一丸となっている。

生徒数三二八名　職員二〇名

東桂中学校長　上野　祐三

歴史講座「城下町つると秋元氏の治績」開催



都留市のまちづくりは、江戸時代の秋元氏によって、その礎が築かれたといわれています。

秋元氏は、寛永十年（一六三三）秋元泰朝が上州総社（現在の群馬県前橋市）より谷村城主として入封して以来、三代七二年間に渡って谷村城主として、城下町の整備や農業・織物などの産業の振興に努めました。

また、宇治から運ばれる将軍用のお茶（茶壺）の一部が暑気の最中勝山城に収められたのも、秋元氏が徳川幕府の信任が厚かったからともいわれています。

この秋元氏についてスポットを当てた歴史講座を次のとおり開催しますので、奮ってご聴講ください。

第一回　4月8日(土)2～4時
テーマ「歴代城主とお城山」
講　師　窪田　薫氏(都留市郷土研究会会長)

第二回　6月10日(土)2～4時
テーマ「城下町と家中川」
講　師　松本四郎氏(都留文科大学教授)

第三回　7月1日(土)2～4時
テーマ「秋元氏の治績」
講　師　川島維知氏(館林地方史研究会会長)

第四回　8月5日(土)2～4時
テーマ「お茶壺道中と谷村」
講　師　増田廣實氏(文教女子短期大学教授)

第五回　9月9日(土)2～4時
テーマ「海気と谷村」
講　師　川鍋定男氏(都留市史編纂嘱託)

第六回　10月7日(土)2～4時
テーマ「芭蕉谷村流遇」
講　師　小林貞夫氏(都留市郷土研究会会員)

会　場　都留市文化会館3階小ホール
参加費　無料
申込・問合先　社会教育課社会教育係　☎43－1111内線214
主　催　都留市教育委員会　都留市郷土研究会